

## 民間競争入札実施事業

## 「H28 - 31 国営アルプスあづみの公園運営維持管理業務」の実施状況報告

基本方針に基づく標記事業の実施状況は以下のとおり。

## 事業の概要等

事 項	内 容
事業概要	国営アルプスあづみの公園（長野県安曇野市・大町市・松川村）における運営維持管理業務 本業務全体のマネジメント及び企画立案業務 1) マネジメント 2) 企画運営管理 施設・設備維持管理業務 1) 維持修繕・保守点検 2) 清掃 植物管理業務 収益施設等管理運営業務
実施期間	平成28年4月1日から平成32年1月31日までの3年10ヶ月間
受託事業者	H28-31 国営アルプスあづみの公園運営維持管理業務アルプスあづみの公園マネジメント共同体
契約金額（税抜）	2,490,400,000 円 平成28年度：633,356,435 円 平成29年度：637,207,317 円 平成30年度：639,719,615 円 平成31年度：580,116,633 円
入札の状況	1者応札（入札説明書交付者＝1者）

事業の目的	本業務は、本公園において、国営公園設置の意義を踏まえ、公園の運営維持管理全般について計画立案を行い、目標及び業務計画を策定し、その一元的管理方針のもとで、利用促進のための行催事や広報宣伝の企画・立案・実施、入園料徴収、巡視・保安警備、公園利用者に対するサービスの提供、利用指導、救急、公園利用者の安全・安心の確保、地域貢献や市民等との協働、他の施設管理者との連携、建物や工作物等公園施設の維持管理、清掃、植物の育成・維持管理、収益施設の運営など多岐にわたる業務を総合的な調整のもと、相互連携を保ち、適切に進捗管理を行いつつ実施するものであり、その効用を最大限発揮させることを目的とする。
選定の経緯	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本方針への掲載 平成 22 年度</li> <li>・市場化テスト事業としての事業実施回数 2 回目</li> <li>・新プロセスへの移行 平成 28 年度</li> </ul>
特記事項 (改善指示・法令違反行為等の有無)	本業務において、業務に係る法令違反行為はなかった。また、重大な事故発生や著しい業務の質の低下など、業務の適正かつ確実な実施を確保するために、競争の導入による公共サービスの改革に関する法律第 26 条における報告の徴収等及び同法第 27 条における指示等が必要な状況はなかった。

## 評 価

### 1. 事業の質に関する評価

本業務においては、「H28-31 国営アルプスあづみの公園運営維持管理業務民間競争入札実施要項」(以下「実施要項」という。)により、サービスの質として、「包括的な質」と「個別業務の質」を設定しているところである。

このサービスの質について達成状況を確認するため、実施要項に記載された方法により実施したモニタリング調査の結果等について報告する。

#### (1) 包括的な質

##### 1) 公園利用者数の確保

公園利用者数

ア 達成すべき質

- ・達成すべき質である本公園の年間及び四半期ごとの有料区域の公園利用者数を下表に示す。

区分	達成すべき質の区分		平成 28 年度 達成すべき質	平成 29 年度 達成すべき質
年間	両地区合計		383 千人以上	388 千人以上
	地区別 合計	堀金・穂高地区	232 千人以上	236 千人以上
		大町・松川地区	152 千人以上	153 千人以上
季節別	両地区 合計	第 1 四半期	96 千人以上	101 千人以上
		第 2 四半期	114 千人以上	114 千人以上
		第 3 四半期	128 千人以上	128 千人以上
		第 4 四半期	45 千人以上	45 千人以上

年間の両地区合計の値は、四半期の積み上げの値。端数処理の影響で地区別の値の合算値とは一致しない。

## イ 結果

表 1 に平成 28 年度および平成 29 年度の公園利用者数の実績値を示す。

表 1 ( 1 ) 平成 28 年度公園利用者数の実績

区分	達成すべき質		平成 28 年度実績
年間	両地区合計 383 千人以上		411 千人
	地区別 合計	堀金・穂高地区 232 千人以上	246 千人
		大町・松川地区 152 千人以上	165 千人
季節別	両地区 合計	第 1 四半期 96 千人以上	128 千人
		第 2 四半期 114 千人以上	126 千人
		第 3 四半期 128 千人以上	116 千人
		第 4 四半期 45 千人以上	41 千人

表 1 ( 2 ) 平成 29 年度公園利用者数の実績

区分	達成すべき質		平成 29 年度実績
年間	両地区合計 388 千人以上		411 千人
	地区別 合計	堀金・穂高地区 236 千人以上	249 千人
		大町・松川地区 153 千人以上	162 千人
季節別	両地区 合計	第 1 四半期 101 千人以上	133 千人
		第 2 四半期 114 千人以上	128 千人
		第 3 四半期 128 千人以上	108 千人
		第 4 四半期 45 千人以上	41 千人

- ・平成 28 年度の公園利用者は、年間 411 千人となり、達成すべき質は確保された。  
その内訳は、地区別では堀金・穂高地区で 246 千人、大町・松川地区で 165 千人、

季節別では第1四半期 128 千人、第2四半期 126 千人、第3四半期 116 千人、第4四半期 41 千人となっており、第3および第4四半期では達成すべき質が確保されなかったため、国が受託事業者へ文書にて業務改善を指示した。

受託事業者が要因分析を行った結果、主な理由として第3四半期では、10月の休日の天候不順と台風によるコスモスの風倒に伴う生育不良、イルミネーション期間の無料の同種イベントとの競合をあげた。また、第4四半期では、2月中旬以降から3月にかけての気温上昇や降雨の影響で雪遊び等のできない状況が続いたことをあげている。

以上の要因から達成すべき質を確保する改善策として、イルミネーションの1月までの期間延長、インドアガーデンの拡充(ナノハナの庭を新規開催)等により、天候不順に伴う影響を補い、年間での達成すべき質を確保した。

- ・平成29年度の公園利用者は、年間411千人となり、達成すべき質は確保された。その内訳は、地区別では堀金・穂高地区で249千人、大町・松川地区で162千人、季節別では第1四半期133千人、第2四半期128千人、第3四半期108千人、第4四半期41千人となっており、第3および第4四半期では達成すべき質が確保されなかったため、国は受託事業者へ業務改善を指示した。

受託事業者が要因分析を行った結果、主な理由として、第3四半期では12月以降のイルミネーション期間に、暖かく広いオープンスペースを有するイオンモール松本(9月21日オープン)の影響で松本方面からの誘客が減少したこと、10月中旬以降の週末が連日雨模様で、前年を上回る状況悪化により入園者数が伸び悩んだこと、例年に比べ低温傾向が続き外出が控えられたこと等をあげている。

また、第4四半期では、1月以降の降雪が少なく、さらに2月以降に気温の高い日が多く、2月以降の雪遊びのできない状況が続いた他、雪上でのイベントの中止などをあげている。

以上の要因から達成すべき質を確保する改善策として、駅でのイルミネーションのキャンペーンや大学等へのチラシ配布・ポスター掲出など追加広報を実施したほか、インドアガーデン(1/2~2/18まで開催)での修景植物の株数の増強やストーリー仕立ての装飾等で誘客を図り、年間での達成すべき質を確保した。

## 2) 利用者満足度の向上

公園の運営に関する利用者の「満足」の回答比率

### ア 達成すべき質

年間及び四半期ごとの「公園の利用に関するアンケート調査」の「公園には満足されましたか?」における「満足」(5段階評価のうち、最も高い評価の選択肢)の回答比率を達成すべき質としている。

区分	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年間
堀金・穂高地区	61%	66%	63%	65%	64%
大町・松川地区	62%	64%	69%	56%	63%

## イ 結果

表2に平成28年度および平成29年度の「満足」の回答比率の実績値を示す。

表2 利用者満足度の達成すべき質と実績（平成28年度、29年度）

区分	達成すべき質	平成28年度実績	平成29年度実績
堀金・穂高地区	年間64%以上	65.3%	73.4%
	第1四半期61%以上	66.1%	75.2%
	第2四半期66%以上	68.2%	67.1%
	第3四半期63%以上	60.4%	71.9%
	第4四半期65%以上	65.4%	79.2%
大町・松川地区	年間63%以上	67.9%	72.5%
	第1四半期62%以上	68.0%	74.2%
	第2四半期64%以上	66.5%	70.5%
	第3四半期69%以上	70.4%	69.1%
	第4四半期56%以上	67.2%	76.2%

- 平成28年度の堀金・穂高地区の「満足」の回答比率は年間で65.3%となり、達成すべき質は確保された。また、その内訳は、第1四半期66.1%、第2四半期68.2%、第3四半期60.4%、第4四半期65.4%となっており、第3四半期では達成すべき質が確保されなかったため、国が受託事業者へ文書により業務改善を指示した。

受託事業者は、堀金・穂高地区の第3四半期で達成すべき質を確保できなかった理由として、第3四半期は9月の長雨と日照不足による影響でコスモスの生育不良や開花の遅延が発生、更に台風16号の強風でコスモスが倒伏し、来園者の期待に応えた修景ができなかったことをあげた。受託事業者は、コスモスの周りに背丈の低い品種の植栽を行うなど風対策の実施及び新規開園エリアの里山文化ゾーンでは、コスモスに特化しない多様な花修景を検討し景観の満足度向上を図ることとした。これらの要因と対策を踏まえると、第3四半期の数値は達成すべき質を若干下回っているものの、同程度の質であると評価できる。

- 平成28年度の大町・松川地区の「満足」の回答比率は年間で67.9%となり、達成すべき質は確保された。また、その内訳は、第1四半期68.0%、第2四半期66.5%、第3四半期70.4%、第4四半期67.2%となっており、第1四半期から

第4四半期の全てで達成すべき質が確保された。

- ・平成29年度の堀金・穂高地区の「満足」の回答比率は年間で73.4%となり、達成すべき質は確保された。また、その内訳は、第1四半期75.2%、第2四半期67.1%、第3四半期71.9%、第4四半期79.2%となっており、第1四半期から第4四半期の全てで達成すべき質が確保された。これらのうち、第3四半期については、改善計画を踏まえた対策を講じたことにより達成すべき質が確保されたと評価できる。
- ・平成29年度の大町・松川地区の「満足」の回答比率は年間で72.5%となり、達成すべき質は確保された。また、その内訳は、第1四半期74.2%、第2四半期70.5%、第3四半期69.1%、第4四半期76.2%となっており、第1四半期から第4四半期の全てで達成すべき質が確保された。

### 3) 公園特性を生かした植物管理

植物管理に関わる公園利用者の「満足」の回答比率

#### ア 達成すべき質

春季、夏季、秋季の「公園利用者アンケート」の「花や樹木の手入れの良さ」における「満足」の回答比率を達成すべき質として定めている。その内容を下表に示す。

地区	堀金・穂高地区	大町・松川地区
達成すべき質	年間67%以上	年間70%以上

#### イ 結果

表3に平成28年度と29年度における植物管理に関する公園利用者の「満足」の回答比率の実績値を示す。

表3 植物管理に関する公園利用者満足度の達成すべき質と実績（平成28年度、29年度）

区分	達成すべき質	平成28年度実績	平成29年度実績
堀金・穂高地区	年間67%以上	67.6%	69.4%
大町・松川地区	年間70%以上	72.2%	72.2%

- ・平成28年度は、両地区とも、達成すべき質が確保された。

堀金・穂高地区では、チューリップ等による花修景や、また新規開園した里山文化ゾーンには、ソバの花畑など、新たな花の見所が加わったことなどから、満足との回答比率は達成すべき質を上回る67.6%であった。一方、大町・松川地区では、シャーレーポピー等による花修景とともに、林床の見通し確保など快適性や安全性にも配慮した植物管理を展開してきたことなどから、満足との

回答比率は達成すべき質を上回る 72.2%であった。

- ・平成 29 年度も、前年度に引き続き両地区とも達成すべき質が確保された。堀金・穂高地区では、第 1 四半期の花修景に、チューリップに加え里山文化ゾーンでのナノハナ畑が加わったことや、第 2 四半期に実施したヒマワリ迷路も好評を得たことなどから、満足との回答比率は 69.4%と前年度実績を上回り、達成すべき質が確保された。

一方、大町・松川地区では、れき原の花畑での花修景に加え、適切な樹木の管理の実施により、新緑、紅葉といった自然の移り変わりの美しさが満足との回答比率につながり、達成すべき質は昨年同様の 72.2%と、達成すべき質が確保された。

#### 4) 多様な利用プログラムの提供

利用プログラムの開催回数、延べ参加人数

##### ア 達成すべき質

達成すべき質である利用プログラムの開催種数、延べ参加人数を下表に示す。

項目	堀金・穂高地区	大町・松川地区
種類数	年間 95 種以上	年間 90 種以上
参加者数	(平成 28 年度達成すべき質) 年間 24.3 千人以上	(平成 28 年度達成すべき質) 年間 28.5 千人以上
	(平成 29 年度達成すべき質) 年間 24.4 千人以上	(平成 29 年度達成すべき質) 年間 29.0 千人以上

##### イ 結果

表 4 に平成 28 年度と 29 年度におけるプログラムの開催種数、延べ参加人数の実績値を示す。

表 4 利用プログラムの開催種数、延べ参加人数の達成すべき質と実績

(平成 28 年度、29 年度)

区分	地区	達成すべき質	平成 28 年度 実績	平成 29 年度 実績
種類 数	堀金・穂高地区	年間 95 種以上	157 種	137 種
	大町・松川地区	年間 90 種以上	105 種	112 種
参加 者数	堀金・穂高地区	平成 28 年度：年間 24.3 千人以上 平成 29 年度：年間 24.4 千人以上	61.8 千人	51.1 千人
	大町・松川地区	平成 28 年度：年間 28.5 千人以上 平成 29 年度：年間 29.0 千人以上	36.4 千人	35.0 千人

- ・平成 28 年度は、新規開園区域においても各種プログラムが開催された。また、通常、季節、特別の 3 種類のプログラムメニューを利用の繁閑や季節に応じて展開させており、双方が相まって両地区とも、達成すべき質が確保された。堀金・穂高地区では、利用プログラムの開催種数が年間で 157 種、延べ参加人数が 61.8 千人と達成すべき質を大きく上回った。同様に、大町・松川地区では、利用プログラムの開催種数が年間で 105 種、延べ参加人数が 36.4 千人と達成すべき質が確保された。
- ・平成 29 年度は、堀金・穂高地区では、健康増進に着目した健康ウォーキングプログラムの実施や里山文化ゾーンの立地を活かした農業体験、観察会などのプログラムが各種開催されており、両地区とも達成すべき質が確保された。堀金・穂高地区では、利用プログラムの開催種数が年間で 137 種、延べ参加人数が 51.1 千人と達成すべき質を大きく上回った。同様に、大町・松川地区では、利用プログラムの開催種数が年間で 112 種、延べ参加人数が 35.0 千人と達成すべき質が確保された。

## 5) 情報受発信

### ア 達成すべき質

達成すべき質であるマスコミによる報道件数、ホームページの総アクセス件数を下表に示す。

区分	達成すべき質
マスコミによる報道件数	年間 1,494 件以上
ホームページの総アクセス件数	年間 598 千件以上

### イ 結果

表 5 に平成 28 年度と 29 年度のマスコミ報道件数・ホームページの総アクセス数の実績値を示す。

表 5 マスコミ報道件数・ホームページの総アクセス数の達成すべき質と実績

(平成 28 年度、29 年度)

項目	達成すべき質	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績
マスコミによる報道件数	年間 1,494 件以上	2,661 件	3,106 件
ホームページの総アクセス件数	年間 598 千件以上	718 千件	710 千件



- ・平成 28 年度は、マスコミ担当者へのプレスリリースを継続したほか、マスコミ担当者へ直接資料送付し、TV 取材や地元紙等への記事掲載を働きかけるなど「積極的な広報」を展開してきた。その結果、報道件数は年間で 2661 件と達成すべき質が確保された。また、ホームページにて動画による公園の楽しみ方、魅力的な情報発信等によりアクセス数向上に努めてきた結果、ホームページの総アクセス件数は年間 718 千件と達成すべき質が確保された。
- ・平成 29 年度は、両地区にて週 1 回発信されるプレスリリースやマスコミ担当者への働きかけなど積極的な広報を継続することで、TV やラジオのスポット CM、テレビ天気フィラーなど露出も多く確保され、また、インターネットを活用したホームページでの動画配信、SNS を通じた最新情報の随時発信など、情報発信の充実を図った。その結果、報道件数は年間で 3106 件と達成すべき質が確保された。また、ホームページにて動画による公園の楽しみ方、魅力的な情報発信等によりアクセス数向上に努めてきた結果、ホームページの総アクセス件数は年間 710 千件と達成すべき質が確保された。

## ( 2 ) 個別業務の質

### ア 達成すべき質

以下に示す個別業務の質を確保すること。

#### 本業務全体の企画立案及びマネジメント業務

多岐にわたる業務について適切な目標を定め、総合的な調整のもと相互連携を保ちつつ、実施の方法が決定され、さらに、これらの業務を総括し、適切な進捗管理が行われていること。

また、入園料の徴収、国庫への納入などを行うことその他本業務が円滑に行われるための諸業務を実施すること。

#### 企画運営管理業務

公園利用者の満足度が高いレベルで保たれていることを目的とし、多種多様な公園 利用者のニーズを適切に把握したうえで、指定された業務内容を実施し、公園利用者 への適切な指導・サービス、利用促進のための行催事、公園ボランティアとの良好な 連携に向けた支援・調整を行うとともに、常時適切な広報、情報発信を行い認知度を 向上すること。

#### 施設・設備維持管理業務

##### 1) 維持修繕・保守点検

建物、園路広場、遊具、電気設備、汚水・排水施設等の性能が常時適切な状態で保たれているとともに、公園利用者の安全が確保されていることを目的とし、指定された業務内容を実施し、建物、園路広場、遊具等の機能及び劣化の状態を調査するとともに、異常又は劣化がある場合は、必要に応じ対応措置が判断・実行されて

いること。

## 2) 清掃

快適な公園環境が保たれていることを目的とし、指定された業務内容を実施し、施設内外の汚れを除去し、又は汚れを予防すること。

### 植物管理業務

本公園の意義や役割、機能を踏まえた演出を目的とし、公園全体の利用状況、景観、季節、及び生物の生育環境等に応じ、自生植物や園芸植物等の特性にあった年間管理計画を作成し、植物が常に良好な状態にあること。

### 収益施設等運營業務

公園利用者へのサービス向上を目的とし、公園管理の包括的・統一的な管理のもと、公園運営維持管理業務との連携調整を図りながら、公園利用者の利便性が高まり、安全・快適かつ清潔な環境が保たれていること。また、自主事業を行う場合は、公園の利便性や魅力をより一層高めるよう適切に行うこと。

## イ 結果

個別業務の質に関する履行確認は、運営維持管理業者からの企画提案を含め、全ての事項を網羅した『履行確認シート』を作成し、調査職員が項目に応じた履行確認を書面及び現地立ち会いにより実施している。

平成 28 年度及び平成 29 年度において、運営維持管理業者から調査職員に対して適切に月別作業企画書、実績書が提出され、調査職員により計画通りの履行を確認しており、個別業務の質が確保されていることを確認した。

### (3) 民間事業者からの改善提案による改善実施事項

民間事業者からは、企画提案時及び業務を履行するなかで、以下のようなサービス向上のための提案が出されており、これらの提案については、毎月開催される連絡調整会議(国職員と受託事業者との定例の意見交換の場)等で調整を行い実施している。

## 実施状況

提案・実施例（平成 29 年度）

### 【花修景】ナノハナ 500 万本による新しい花のみどころ創出

平成 28 年 6 月に開園した里山文化ゾーンでは、約 6.5ha のナノハナの修景を実施し、新たな花のみどころを創出した。ナノハナ健康ウォーキングなどのセルフプログラムを取り入れるとともに、ドローンによる撮影動画を SNS 用いて発信する等、各方面に発信した。



実施期間：平成 29 年 4 月末～5 月中旬

入園者数：5,343 人（4/25～5/21 までの里山文化ゾーン入園者数）

### 【イベント】スマイルミネーションの開催

堀金・穂高地区において、全長 40m の光の滝や 100m の光の回廊、水路にきらめく 200m の光の川や星空、蛍の光など、安曇野の水と緑と生き物たち、美しい自然をイメージし青色と白色を基調とした涼しげな光の演出を実施した。



実施日：平成 29 年 8 月 11 日（金祝）

～8 月 20 日（日）

入園者数：30,980 人（うち夜間入園者数 10,808 人）

### 【花修景とイベントプログラムの組み合わせ】ヒマワリ迷路の開催

堀金・穂高地区の里山文化ゾーン 棚田エリアにおいて、広さ 3,000m<sup>2</sup> のヒマワリ畑に、簡単なコースと難しいコースの 2 種類、迷路総延長 650m のヒマワリ迷路を初めて実施した。



ヒマワリは高さや咲き方の異なる 4 種類の品種を取り入れ、安曇野の風景に映える新たな夏の花の見どころとしても発信した。

実施期間：平成 29 年 7 月下旬～8 月

入園者数：3,150 人（7/20～8/31 までの里山文化ゾーン入園者数）

前年の同期間と比べ 2,146 人増加

### 【施設運営】MTBコースの運営の充実

MTBは日常メンテナンスが不可欠で、使用頻度と負荷の大きな利用形態の場合、壊れる前に中古市場などに売り、車両の円滑な補充を図ることが有効なため、開園初年度は無料であった車両貸し出しを有料とした。

一方で、MTBやランニングバイクの競技会や通常のMTBの2倍以上の太さの自転車「ファットバイク」の体験、夏休み以外の期間の平日（第三水曜）開園なども取り入れ、エリア内の入園者数を昨年度比で12%増とした。

MTBコース利用者数：8,047人

（平成29年4月29日～11月26日までの土日祝日、第三水曜日で運営）



### 【持ち込み行事】広い敷地を利用した森林系のスポーツ競技大会の誘致

#### オリエンテーリングサミット2017 in アルプスあづみの公園

平成28年6月に開園した大町・松川地区の自然体験ゾーン（MTBコース以外は、スタッフ付プログラムの利用を限定）も含めた地区全域を使つてのオリエンテーリングの全国レベルの競技大会を実施（第10回全日本スプリントオリエンテーリング大会として開催）。雪の前の閑散期に1,000人を超える集客を実現した。



実施期間：平成29年11月25日～26日

入園者数：1,226人（11月の地区の有料入園者総数10,494人の11.4%）

#### 評価

平成29年8月は、サマーイルミネーションで夜間に新たに10,800人の入園者を確保し、また、平成28年6月からの追加開園区域において、ヒマワリ迷路などの花修景をセットにした新たなプログラムを導入し、同区域に2,000人以上の利用増加を図った。これらにより、8月の天候不順に伴う利用者減少を抑制できた。

平成29年は平成28年6月の全園開園を受け、全域開園した広大な環境を春から冬まで使うなかでの利用促進が重要な課題であったが、ナノハナ修景、ヒマワリ迷路、MTBコース運営の拡充、森林系のスポーツ競技大会の誘致等により、新たな公園ストックを活かした多様なコンテンツでの誘客を実現し、有料区域の年間利用者数の目標や

プログラム数を達成した。

また、こうした新たな取り組みや本公園の景色を効果的に伝える広報により、ホームページへのアクセス数やマスコミによる報道件数も達成すべき質を上回る効果を生んだ。

## 2. 実施経費についての評価

従前経費と実施経費を比較すると、実施経費は従前経費に比べ 97,168 千円増加している。

この主な要因は、従前経費の供用面積が 106ha に対し実施経費の供用面積が 353ha と 247ha 増加したことによるものである。

よって、実施経費について、平成 24 年度時点の供用面積 106ha（従前の面積）へ換算したところ、平成 24 年度の経費が 536,188 千円に対し、平成 28 年度の経費が 190,186 千円となり、346,002 千円（64.5%）の経費削減が図られたと評価できる。

なお、上記に加え労務単価も上昇しており、実際にこれ以上の経費削減が図られている。

項目	金額	増減要因の分析等を反映した金額
従前経費 (税抜)(A)	536,188,000 円 (平成 24 年度)	536,188,000 円 (平成 24 年度)
実施経費 (税抜)(B)	3 年 10 ヶ月：2,490,400,000 円 平成 28 年度：633,356,435 円 平成 29 年度：637,207,317 円 平成 30 年度：639,719,615 円 平成 31 年度：580,116,633 円	平成 24 年度の供用面積に換算した 平成 28 年度の実施経費： 190,186,352 円  < 供用面積 > 平成 24 年度：106ha 平成 28 年度：353ha
削減額 (C) = (A) - (B)	< 平成 28 年度との比較 > 97,168,435 円	< 平成 28 年度との比較 > 346,001,648 円
削減率 (C / A × 100)	< 平成 28 年度との比較 > 18.1%	< 平成 28 年度との比較 > 64.5%

## 3. その他（特記事項に係る経緯等）

改善指示・法令違反行為はなかった。

## 4. 評価委員会等からの評価

平成 30 年 3 月に関東地方整備局国営公園運営維持管理業務有識者委員に本業務の実施状況を説明し、引き続き新プロセスによる市場化テストを継続することが妥当とされた。

## 5. 評価のまとめ

## ( 1 ) 評価の総括

平成 28 年度及び平成 29 年度ともに、「達成すべき包括的な質」及び「個別業務の質」について、概ね達成されている。

また、国職員と調整しつつ各種改善提案を行うとともに民間事業者のノウハウを活かしたサービスの提供等にも努めており、サービス水準の向上につながっていると評価できる。

特に、平成 28 年 6 月に開園した里山文化ゾーンでの春のナノハナ、夏のヒマワリ、秋のコスモスの花の新たなみどころの創出、大町・松川地区の MTB コース運営の充実、森林での新たなスポーツ競技大会の誘致などを行った他、既存エリアとなる堀金・穂高地区でのチューリップの本数、種類の充実、サマーイルミネーションの新たな実施などにより、マスコミによる報道件数が達成すべき質を大きく上回り、アルプスあづみの公園の新たな魅力を更に高めている点が評価できる。

## ( 2 ) 今後の方針

本業務において達成すべき質は概ね達成されており、業務に係る法令違反や競争の導入による公共サービスの改革に関する法律第 27 条に基づく業務改善指示が必要とされる状況はなかった。一方でより民間事業者の参入を促進し競争性を高めるよう検討を続ける必要があることから、次期業務においても、「市場化テスト終了プロセス及び新プロセス運用に関する指針（平成 26 年 3 月 19 日官民競争入札等監理委員会）」に基づき、引き続き新プロセスでの市場化テストを実施したい。

なお、次期業務の実施に当たっては、本業務の実施結果や、他公園における運営維持管理業務の実施状況等を踏まえ、国営公園の管理の質の向上及び一層の民間事業者の参入の促進等のため、下記の改善を図る予定である。

- 1 . 入札参加者の募集に関する改善
  - ・ 入札公告から申請書類等の受付期限までの期間延長
  - ・ 入札参加が期待される関係団体等への周知
  - ・ 包括的な質の設定に関する改善
  - ・ 収益施設等設置管理運営業務の対象拡大
- 2 . 配置予定者の業務実績等に関する要件の緩和
  - ・ 開園期間中の業務責任者の実施体制を緩和
  - ・ 企業および配置予定者の業務実績要件の緩和